

第 22 回全国総会あいさつ

中央協議会 会長 石原 喜久

2020年9月25日

今春、3月以降、本総会も含めて7か月の長い期間、支部協の皆さんとは、リモートでの対応を強いられることになりました。

顔を合わせての話もできず、本当に残念です。

このハンデを克服するため、支部協の皆さんには、ブロック会議への各種取り組み、組織実態と課題など、具体的で詳細な報告をまとめていただきました。これは47通りの膨大なものですが、これを集約、整理して、7月の電話での代表者会議、そして今、文書による全国総会が開催されています。その間に、支部協と中央協で文書のやり取りが何度、繰り返されたでしょう。もちろん、メール、電話での個別のやりとりも挟みつつです。

こうした、従来にないリモートのコミュニケーションが、コロナの自粛体制のもとで積み重ねられました。

また、支部協では、災害カンパ、1000万署名の集約。被災支部協では、さらに、被害の実態把握とお見舞いの手配など。加えて、全ての支部協で、コロナの下、会報の発行、加入促進のサポート、イベント中止の通知等々、会活動の混乱を最小限に抑える様々な対処が行われていたと存じます。

第22回全国総会に際し、中央協を代表し、コロナ下で、会の絆を維持するための支部協、地区協など全ての関係者のご努力に、改めて心からの感謝を申し上げます。

現状、コロナの感染拡大が収束に向かっているとはまだ判断できません。

こうした状況がいつまで続くのか、予断は許されませんが、「会員も、そして会もフレイルに陥らないよう」「離れてもつながりを絶やさず」知恵をだしあい、活動の維持、継続が図られるよう願うばかりです。

また、代表者会議を電話でブロック単位で行いましたが、退職者連合のある産別から、「え、Webじゃないの」と反応されました。「退職者はね…」と私。

若干、悔しい思いもしました。この話しをしたところ、「うちの幹事会はWebでやってるよ」という支部協もありました。心強い限りです。

できれば、中央協—支部協間ではWeb会議も可能に、と対策費を交付しました。

準備は進んでいるでしょうか。

現役とも相談し、是非、進めてください。

もちろん、私のような、いまだにガラケイ、デジタル音痴も少なくありませ

ん。メールのやり取りぐらいは何とか、ですが、ちょっとトラブればフリーズです。困ったものです。

デジタル化の遅れなど、コロナ禍の中で露呈した日本社会の弱点、綻びを「神田川」で指摘しましたが、願わくは人にやさしい、老人にもなじめるデジタル化社会の進展を期待したいものです。

何れにせよ、日本も世界も、今、大きな転換点にあります。

コロナとともに、明らかになってきた、ますます膨張する国家財政と年金、医療、介護、そして子育ての社会保障の将来、豪雨、暴風、山火事、飢饉など
の世界規模の気候変動、米中の覇権争奪の激化と南シナ海、台湾、東シナ海など、軍事緊張の高まりと我が国の安全保障等々、私たちが傍観者でいられない課題ばかりです。

もちろん、退職者の会の基本は、親睦、交流、心の触れ合い。何よりも会員相互の絆の充実が第一。そして、現役との連携を大切に、社会的な役割も、果たすということです。

これら、全ての課題を、森嶋新会長をはじめとする新体制に引き継ぎ、私は、この総会をもって退任いたします。

2009年の夏に、当時の加藤委員長から「退職者共済と預託金の整理を」と中央協に推され、2011年1月1日に、預託金の返還開始、「ありがとう」のスタート。直後の3・11東日本大震災。その夏、羽山会長が退職者連合事務局長に。替わった岩河会長から推されて同年、事務局長に。4年後、岩河会長が退かれ、会長に選任いただきました。

思えば、併せて11年の長期に亘る、お茶の水、駿河台通いなっていました。長い間、本当にありがとうございました。

中央協事務局でご一緒させていただいた皆さん、全国の支部協、地区協などの会の仲間の皆さん、N 労中央本部、各企業本部、総支部等の現役の皆さん、労連本部と構成組織の皆さん、生協、労連事業部、きららなど福祉事業体の皆さんには。本当にお世話をおかけました。

自分ではあまり意識していないのですが、押しつけがましい態度をとったり、しつこく食い下がったりとご迷惑をかけたことも多かったと存じます。

この際、お許しをいただいておりますと存じます。

重ねて、全てのご協力いただいた皆様に、衷心からお礼申し上げます。

ありがとうございました。

以 上